

|                            |  |   |
|----------------------------|--|---|
| 開講科目名 / Course             | 環境保健学詳論  |   |
| ターム・学期 / Term・Semester     | 2021年度 / Academic Year 前期  |   |
| 開講区分 / semester offered    | 前期   |   |
| 単位数 / Credits              | 1.0  |   |
| 学年 / Year                  | 2  |   |
| 主担当教員 / Main Instructor    | 小嶋 光明  |   |
| 担当教員名 / Instructor         | 小嶋 光明、恵谷 玲央  |   |
| 必修・選択 / compulsory subject | 必修   |   |
| 講義形態 / Class Type          | 講義   |   |
| 科目の目的と概要                   | 本講義では生活の中で遭遇する身近な環境因子について、具体的な健康影響とその予防・安全管理の実際を学ぶ。  |   |
| 到達目標                       | 1. 健康に影響を与える環境因子を説明できる。<br>2. 環境因子による健康影響の予防策が説明できる。   |   |
| DPとの対応                     | 3. 心豊かな人間性と倫理観、4. より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力  |   |
| 授業計画                       | 01. オリエンテーション(授業の進め方、課題レポート)<br>02. 熱中症対策に塩分はなぜ必要か？<br>03. MRI 検査でなぜ金属物を持ち込めないのか？<br>04. ミクロショックでは微量な電流でもなぜ致命的なのか？<br>05. 鳥インフルエンザはなぜ世界が注目して警戒するのか？<br>06. PM2.5 の健康影響をどう考えればよいか?その対策は？<br>07. 化学物質中毒死の中で最も多い原因が一酸化炭素中毒である、なぜか？<br>08. 社会的な喫煙対策が進まないのはなぜか？<br>09. 多くの健康食品の効果はプラシーボ効果で説明できるか？<br>10. 予防ワクチンの集団の効果も期待し、個人の副作用リスクは避けるにはどうするか？ |   |
| その他の授業の工夫                  | 学生自身が主体的に学び、そして、より深く理解するために、1人1課題を与え発表してもらうことにしている。  |   |
| 時間外学修                      | 講義資料を基に復習してもらうとともに、与えられた課題をまとめ、発表資料の作成をする。   |   |
| 評価方法と評価割合                  | 課題発表(30%)および筆記試験(70%)<br>筆記試験の受験には課題発表が必須である。  |   |
| テキスト                       | 講義ごとにハンドアウトを配布する。  |   |
| 参考書                        |  |   |
| 履修する上で必要な要件                |  |   |
| その他                        |  |   |
| 教員の実務経験                    | 有・無  | 無 |
|                            | 内容   |   |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験          | 有・無  | 無 |
|                            | 内容   |   |
| 実務経験をいかした教育内容              |  |   |